



ドライアイスは冷たいのに、どうしてやけどするの

ドライアイスで凍傷になる

ドライアイスは、アイスクリームや冷とう食品などを低温に保つ、冷きやく剤に使われています。

ドライアイスは、気体の二酸化炭素をこおらせて、固体にしたものです。その温度は、約マイナス80^{ドスキー}です。

このように、ドライアイスはたいへん温度が低いので、直接手で持つと、皮ふや筋肉が急に冷やされて、そこがこおりついてしまいます。そして、こおりついたままの状態が長く続くと、凍傷になってしまいます。

凍傷をやけどとよぶことがある

ドライアイスでできた凍傷のことを、やけどとよぶことがあります。このやけどは、熱によってできたやけどとはちがいます。傷のようすが、熱でできたやけどと似ていたために、やけどとよんでいるのです。ドライアイスにさわるときには、必ず手ぶくろをするようにしてください。

ドライアイスは、固体から気体になる

ふつう、物質は、固体液体気体と変化しますが、ドライアイスは、とけたときに液体にならず、すぐに気体になる性質をもっています。氷のようにとけてぬれることがないので、ドライアイス(かわいた氷という意味)とよばれています。(監修・小川 格)

